

農推第 3274 号  
平成29年3月2日

関 係 各 位

大阪府環境農林水産部農政室長

防除情報「タマネギべと病に注意しましょう！」について（送付）

標記について、別紙のとおり作成しましたので、病害虫防除に御活用ください。

<連絡先>

大阪府環境農林水産部農政室推進課  
病害虫防除グループ

TEL : 072-957-0520

FAX : 072-956-8711

E-mail : byogaichu@sbox.pref.osaka.lg.jp

## タマネギべと病に注意しましょう！ (予防散布を徹底しましょう！)

### 1 発生状況等

2月の泉州地域の巡回調査で、タマネギべと病の越年罹病株の発生が確認された。昨年の多発生により、ほ場内の本病原菌の密度が高まっていると考えられるため、今後の発生に注意が必要である。



写真1  
 (越年罹病株)



写真2  
 (越年罹病株(手前)と健全株(奥))



写真3  
 (2次感染株(通常のべと病))

※原図(写真2:(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所)

### 2 べと病の生態等

- (1) 作物残渣などから、苗床・定植後に感染(11~12月)する。
- (2) 感染した株は越年し、冬期(2~3月)に病徴として症状を示す(写真1, 2 越年罹病株)。葉は黄化し、つやがなく、萎縮、ねじ曲がる。こうした株の本数は非常に少ないが感染力は強い。
- (3) 越年罹病株が感染源となり、春(3~5月)に温暖(15℃前後)で、降水量が多いと、2次感染株(通常のべと病株)の発生が増える(写真3)。

### 3 防除対策

- (1) 越年罹病株の抜き取りを徹底する。特に昨年、発生が多かったほ場では、今年も多発する恐れがあるので注意してほ場を見回るようにする。抜き取った株は、ビニール袋等に入れて処分する。
- (2) ジマンダイセン水和剤・ペンコゼブ水和剤等を予防主体に散布する。
- (3) 発生を認めたら、ザンプロ DMフロアブル、ホライズンドライフロアブル、プロポーズ顆粒水和剤等を散布する(表1)。

表1 べと病の防除薬剤(例)

| 薬剤名                 | 希釈倍数         | 使用時期    | 本剤の使用回数 |
|---------------------|--------------|---------|---------|
| ジマンダイセン水和剤・ペンコゼブ水和剤 | 400~600倍     | 収穫3日前まで | 5回以内    |
| リドミルゴールドMZ          | 1,000倍       | 収穫7日前まで | 3回以内    |
| ザンプロ DMフロアブル        | 1,500~2,000倍 | 収穫7日前まで | 3回以内    |
| ホライズンドライフロアブル       | 2,500倍       | 収穫3日前まで | 3回以内    |
| プロポーズ顆粒水和剤          | 1,000倍       | 収穫7日前まで | 3回以内    |

注) ジマンダイセン水和剤とペンコゼブ水和剤及びリドミルゴールドMZに含まれる成分マンゼブを含む農薬の総使用回数は、5回以内。

- Web版大阪府病害虫防除指針  
 (<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>)
- 農林水産消費安全技術センター 農薬登録情報提供システム  
 ([http://www.acis.famic.go.jp/index\\_kensaku.htm](http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm))